

平成 28 年度定時会員総会・春季学術講習会が開催されました

第 23 回郡山シティーマラソン大会 ボランティア治療に参加しました

去る 4 月 24 日(日)郡山市・ビッグパレットふくしまにて平成 28 年定時会員総会および春季学術講習会が開催されました。

午前中は定時会員総会が行われ、昨年度の事業報告と今年度の事業計画、財務状況が報告されました。昨年の全日本鍼灸学会学術大会ふくしま大会に続き、**今年は東北鍼灸学会学術大会福島大会が 9 月 18・19 日に開催されます。** 実行委員一同、素晴らしい大会になるよう頑張っています。会員の皆様のご協力も是非お願い致します！

午後からは春季学術講習会が開催され、1 つ目は中沢良平先生の『地域ケアと鍼灸師の役割』と題してご講演していただきました。

これからやってくる超高齢化社会・人口減少社会に向けて、我々鍼灸師が生き残っていく一つの方法として「地域包括ケアシステムへの参入」があります。地元地域の住民のケアは鍼灸師が得意としています。簡単なことではありませんが、多職種連携の輪に入り、地域ケアを進めたいものです。



【 中沢良平先生 】



【鈴木暢弘先生】

2 つ目のご講演は鈴木暢弘先生による『障がい者のスポーツ鍼灸』。昨年 9 月に東北鍼灸学会にて(障がい者の)腰痛というテーマで発表されました。

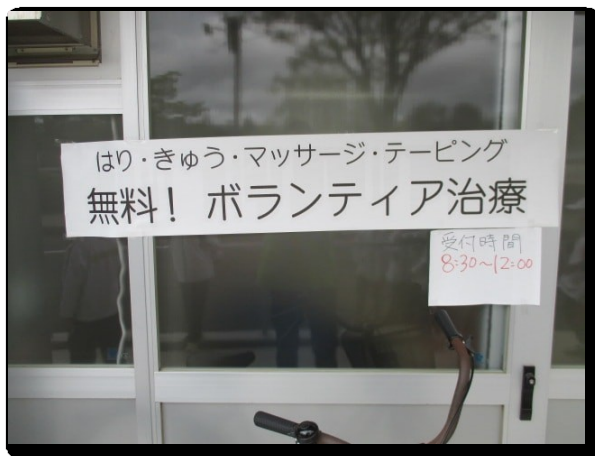
今回は脳性麻痺、発達障害をモデルケースとして、障がい者とスポーツとの関わりをお話していただき、また実技では筋肉のこわばり・硬さ(痙縮・固縮)が緩和する施術を披露していただきました。経験から導き出される少数穴治療はとても奥深いものでした。

4月29日(金・祝日)は第23回郡山シティーマラソン大会が郡山市・開成山陸上競技場にて開催されました。第2回大会からボランティア治療を通じて参加している本会。今年も28名の有志が集まり(内、8名は専門学校生)、ランナーの皆さんのために汗を流してまいりました。

今年は珍しく曇天・低温・強風とランナーには厳しいコンディションでしたが、完走されたランナーの皆さんの疲れた中にも充実した表情が印象的でした。



【 低い気温と強風という生憎の天気 】



【 意外と目立っていました! 】

今回は8,000名を超えるランナーがエントリーした本大会。例年に比べ、レース前のコンディショニングが多かったです。やはり分母が増えた分、分子もそれに比例して増えます。

受付を担当された先生方の手際の良いサポートがあり、施術側もストレスなくランナーに専念することが出来ました。施術の合間には先生同士で情報交換をしたり、専門学校生にレクチャーしたりと有意義な時間を過ごせたようです。

今年はいつもの立て看板の他に”横断幕風”の紙を準備してブースの外に貼りました。個人的には「無料!」と書かれていたのがとてもインパクトがあって目を引いていたと思います。縦バージョンの”懸垂幕風”もありました。

これを見てか、見ていないかは分かりませんが、今年はレース前のテーピング依頼が多かったように思います。レース前のちょっとした不安からテーピングにプラセボ効果を求めるランナーもいたことでしょう。



【 ブースは開始直後から大忙し! 】

いつものように全てのレースが終了するお昼前になるとブースは混雑しましたが、大きな事故やアクシデントもなく無事に終わることが出来ました。若手の先生、ベテランの先生、それぞれが自信を持ってランナーと向き合い、施術したことで沢山の皆さんに喜んでいただけたことと思います。

来年からは舵取りを三瓶和樹先生(三瓶真一先生の息子さん)にお任せすることになり、変わらぬ情熱と新しい風で新体制のボランティア治療チームが作られます。また来年この場所で会員の皆さんと一緒に汗を流したいと思います! 皆様のご参加をお待ちしております!

